

前年同期並みに追いつきつつありますが、日塗工業況観測アンケート 12 月分

2021年1月28日

本日、日塗工より業況観測アンケート 12 月の結果を受領いたしました。組合員の皆さんにはすでに結果を FAX にて連絡しております。

12 月の業況 金額 98.7% 数量 98.1% (いずれも前年同月比)

12 月分の調査結果ですが、全体では 11 月に比べ前年同月比(金額)で **0.2 ポイント**低下しました。前年 12 月は消費税引き上げにより全体に需要低迷が続き、全体の前年同月比が 95.7 でありましたが、平時との比較ではそれを考慮する必要があります。1 月の予想は「**金額、数量とも微減の見通し**」となりました。

用途別業況の推移(前年同月比、金額)

前年同月比	金額	建築外装	自動車	船舶・ 構造物	電機・機 械・金属	木工	全体
2019年	9月	114.9	107.2	115.9	101.9	110.2	107.6
	10月	91.7	92.3	99.4	94.1	93.7	94.4
	11月	90.5	90.0	101.1	87.2	98.1	91.0
	12月	94.9	93.9	103.0	93.3	94.0	95.7
2020年	1月	92.5	95.6	95.9	92.7	100.1	95.5
	2月	97.7	90.4	89.6	93.7	94.1	94.2
	3月	87.7	88.4	103.7	94.5	86.8	92.3
	4月	88.3	75.5	90.2	91.6	97.4	86.7
	5月	81.1	58.4	92.1	78.5	85.5	78.3
	6月	90.4	60.3	97.3	84.3	87.3	82.6
	7月	83.0	73.9	89.8	80.3	81.9	82.8
	8月	92.9	79.8	89.3	82.0	83.2	86.8
	9月	83.3	95.2	91.0	90.8	86.4	90.3
	10月	100.2	103.1	92.2	91.2	93.1	97.4
	11月	97.6	98.4	90.5	96.9	99.2	98.9
	12月	99.8	102.0	97.6	96.4	97.0	98.7

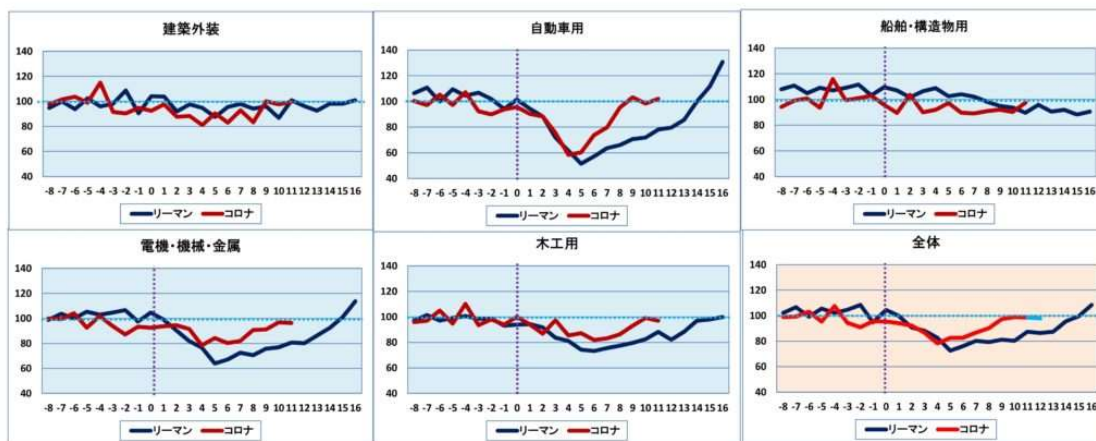
分野別では、11 月から見て前年同月比(金額)で、**建築が 2.2 ポイント、自動車が 3.6 ポイント、船舶・構造物が 7.1 ポイントアップ**しましたが、**電機・機械・金属が 0.5 ポイント、木工が 2.2 ポイントダウン**し、先月とは逆の結果になり、**全体としては 0.2 ポイントのダウン**でした。

ご参考までに、リーマンショック時と今回のコロナ禍の各需要分野の業況の推移対比のグラフを示します。起点をリーマン時は 2008 年 9 月、コロナ禍は 2020 年 1 月にとり、前後の業況をグラフ化しております。

この図から読み取ると、全般的にほぼ前年同期比の水準に追いついており、リーマンショック時と比較すると、前年同月比に追いつくまでの期間が短いと言えます。ただし、気になる点が二つあります。一つは、言うまでもなくコロナの感染動向です。現在は第 2 次緊急事態宣言下であり、一応の期限である 2 月 7 日で解除される可能性は低く、長期化することで経済的に大きなダメージを受ける可能性があります。

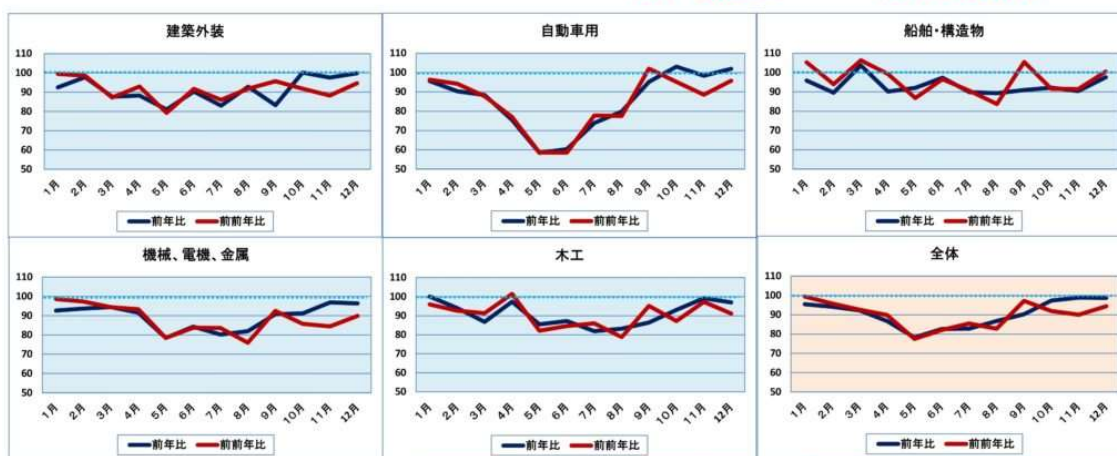
二つ目は、消費増税により昨年10月以降の消費低迷があったことにより、前年同期比の値が高くなる可能性があることです。これはすぐに検証できるので、2020年1-12月について、前年比と前々年比を比較検討してみました。

日塗工 業況観測アンケートの需要分野別概況 リーマン時とコロナ時（今回）の比較



リーマン時 2008年9月を0とし、前8か月 後16か月
 コロナ時（今回） 2020年1月を0とし、前8か月 後11ヶ月

日塗工 2020年業況観測アンケートの需要分野別概況推移 前年（2019年）同月比と前々年（2018年）同月比



全体的に言えば、前年比と前々年比は、比較的良好に一致していますが、10-12月で見ると、建築外装、自動車、機械電機金属分野では、少し乖離が見られ前年比の方が前々年比よりも数ポイント程度高出る傾向が見られます。決して無視できる数字ではありません。この前年同期比が過大な数値になる傾向は今後も続くと思われるので、時々チェックするようにします。

いずれにしても、爆発的感染の収束がなによりも優先されるべき課題であることは明白です。少し過大評価気味とはいえ、なんとか前年並みに回復してきた需要を再び低迷させないよう感染抑制傾向が継続することを祈ります。